

# 令和2年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

## ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

1 一人一人の児童生徒の尊重	2 友達への思いやり	3 道徳・心の教育の充実
<p>学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。</p>	<p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）</p>
<p>それぞれの項目について、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の評価合計は、H30→R1の評価の比較でみると、「1、一人一人の生徒の尊重」についての割合が職員100%→98%、生徒94%→94%、保護者91%→93%。全てが90%を超えており良好に受け取られていることがわかる。また、「2、友達への思いやり」についての割合が職員98%→95%、生徒98%→98%、保護者99%→98%。これについても全てが90%を超えており良好に受け取られていることがわかる。数値が高いところは良好であるが、生徒間のトラブルが無くなったわけではないので、生徒が友達だけでなく学級や部活動、全体や身近な者への思いやりを意識することができるようになれば、さらに数値の向上につながるかとともに、生徒間のトラブルが減少してくると予想される。</p> <p>「道徳・心の教育」については、「3・4」の割合が職員100%→100%、保護者99%→93%。職員は、道徳の授業を充実させていることがわかる。今年度は「道徳の日」に各学年で、生命尊重をテーマに授業を行った。そのような取り組みにより、今年度の保護者の認識も「道徳の学習」については十分高く評価されている。「道徳の日」や通信等での啓発を通して、これからもさらに特別の教科「道徳」の大切さを保護者に理解していただくことが重要と考えられる。</p>		

## ②確かな学力を育む教育の推進

4 意欲的な学習態度	5 授業力向上	6 ICT活用
<p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<p>先生方は、ICT機器を活用してわかりやすい授業づくりに努めていると思いますか。</p>
<p>「意欲的な学習態度」については、H30→R1を比較すると、「3」「4」の割合が教職員93→89%、生徒92→91%。保護者85→85%で高い値で推移している。「授業力向上」についても、教職員98→100%、生徒86→87%、保護者89→90%とすべて上昇している。タブレットを効果的に活用しようとする先生方が取り組みを進めた結果であろう。「2」の割合は大きく減っているものの、それでも勉強が「わからない」「楽しくない」という子どもが存在するという点を謙虚に受け止め、一人一人の子どもたちへ更に目を向けていきたい。</p> <p>ICTの活用については、教職員98→95%、生徒95→87%、保護者92→93%と高い値ではあるが、生徒の値は下降気味であることから、ICTをただ使うという段階から、より効果的で子供の意欲と理解につながる活用法を考える必要があるのではないかと考えられる。</p>		

## ③健やかな体を育む教育の推進

7 健康づくり
<p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>
<p>H30→R1の評価「3・4」の比較で見ると、「健やかな体を育む教育の推進」については、「3・4」の割合が職員79%→79%、生徒82%→83%、保護者80%→82%という結果になった。部活動や保健体育の授業改善により、体力テストの結果も昨年より飛躍的に向上した。また、北部SDGsでの体育・給食・保健委員会を通じた生徒活動により、「薬物乱用防止教室」や「心肺蘇生法の授業」「睡眠や食、運動に関する健康集会」をはじめとした「健康に関わる行事」などの取組によって保護者や生徒の評価が高くなっていると思われる。しかし、まだまだ行動変容に結びついていないところもあるので、今後も委員会を中心とした取組を継続していく必要がある。</p>

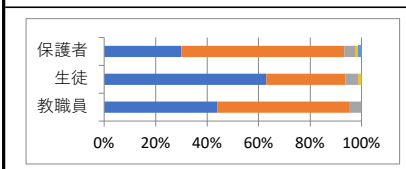
## ④いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実

8 児童生徒理解	9 いじめや問題への対応	10 学校の支援体制
<p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。</p>	<p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>
<p>「8. 児童生徒理解」について、H30→R1の評価「3・4」の比較でみると、教職員100%→98%、生徒88%→89%、保護者90%→92%と、生徒、保護者はそれぞれ増加している。毎週開催している生徒支援部会、登校支援委員会を通じた教職員間でのこまめな情報共有、SC、SSW等の外部機関との連携、教育相談の充実、生活ノートの活用等の実践によって、生徒、保護者からの評価が高くなっていると思われる。</p> <p>「9. いじめや問題への対応」について、H30→R1の評価「3・4」比較でみると、教職員100%→98%、生徒93%→91%、保護者86%→88%と、教職員、生徒はそれぞれ減少、保護者は増加している。きずなアンケート、心と体のアンケート等を活用し、全職員で問題行動の早期発見・対応に努め、家庭への報告や連携もスムーズに行っていることが、保護者の評価の高まりにつながったと考えられる。一方で、教職員、生徒の評価が昨年に比べ低下していることへの対策としては、生徒と向き合う時間の確保につとめ、より丁寧な対応を心がける必要があると考える。</p> <p>「10. 学校の支援体制」ではR1→R2の評価「3」「4」の割合について比較すると、教職員98%→95%、保護者90%→89%と若干減少しているが、高い評価である。学期ごとに特別支援教育推進委員会を行うとともに、必要に応じてタイムリーにケース会議を行い、学校と家庭と連携してスムーズに対応することができた。また、今年度の新入生については「連絡シート」の記入や入学前に希望者の面談を行ったことは大変有意義であった。今後は、引継ぎの方法や、校内での支援方法をさらに精選し、保護者や職員に特別支援教育についての啓発に努めていきたい。</p>		

## ①子どもたちの身近な安全対策の充実

### 11 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

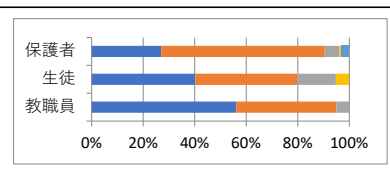


「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の評価合計は、H30→R1の評価と比較でみると、職員100→100%、生徒97→96%、保護者94→95%。昨年度から自転車乗用中の事故を減らすため、小中学校と地域の安全協会が連携し新たな交通指導を進めてきた。その結果、事故件数は大幅に減少した。特に1年生の事故件数は半減した。また、校内でけがをして保健室を利用する生徒数も減っている。これからも家庭や地域と連携し「交通事故や自然災害などによる傷害の防止」の学習を通し、安全で安心して生活できる環境づくりに努めていきたい。

## ②最適な学習環境の整備

### 12 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

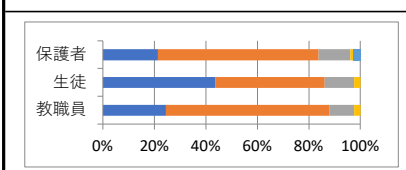


H30→R1の評価「3・4」の比較では、施設設備の安全管理「3・4」の割合が、職員95→98%、生徒90→88%、保護者94→93%。日常の安全点検をはじめとして、連絡報告を徹底することで、危険箇所の早期発見と修繕に心がけている。また、自分の点検箇所だけでなく、気がついたところは、事務に連絡するなどして、さらなる安全に対する意識の向上に努めている。

## ③家庭・地域社会との連携強化

### 13 教育方針・目標の理解

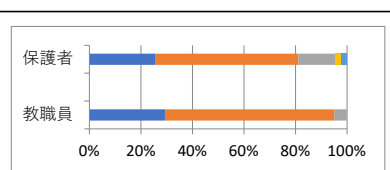
学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。



H30→R1の評価「3・4」の比較でみると、「教育目標や教育方針の周知」については、「3・4」の割合は職員98%→95%、生徒92%→90%、87%→89%。教室をはじめ校内の各所にある掲示物等により意識的な啓発の環境を作っており、生徒のみならず、保護者や校外からの訪問者に対しても情報を発信し、周知を図っている。三者共に高いポイントで推移している。

### 14 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

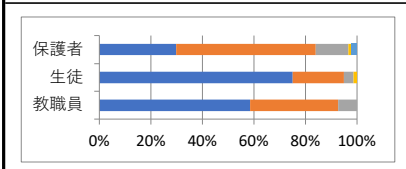


「家庭や地域との連携」については、「3・4」の割合は職員100%→100%、保護者87%→88%。育友会（PTA）の積極的な活動により、保護者と職員が連携して行事の運営や生徒の支援等ができています。同窓会や青少年育成協議会、民生委員児童委員といった地域の諸機関との連携も密である。

## ④本校の教育

### 15 学校教育目標の理解

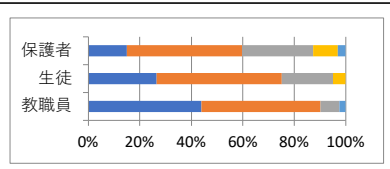
学校教育目標「人とつながる 社会とつながる 未来とつながる ESD」を理解し、教育活動を行っていますか。



H30→R1元の評価「3・4」のポイントと比較してみた。「学校教育目標の理解」については、本年度は職員100→98%、生徒97→96%、保護者92→87%で、様々な機会を捉えて学校教育目標についての意識付けを進めている結果、三者共に高いポイントで推移している。「ESDの研究の周知」については、職員95→98%、生徒92→96%、保護者77→88%と昨年度と比べて更に高いポイントに推移している。今年度は研究発表に向けて研究のまどめに全力をあげて取り組んだ成果であると考えられる。

### 16 身につけさせたい「7つの力」について

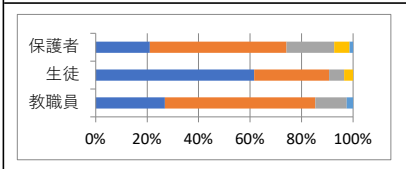
「7つの力」を意識して、教育活動の計画づくりや授業内容の改善に取り組んでいますか。



また「自転車通学の事故防止」については、職員93→77%、生徒91→92%、保護者76→82%である。生徒・保護者のポイントに比べ、職員のポイントが低くなっている。これまで取り組んできた交通安全への取組の他に、道徳・特活等の授業の推進等、職員研修等で共通理解を図り、職員の交通安全指導についての意識を高めていく必要がある。

### 17 自転車通学の事故防止

自転車の安全運転・通学路危険箇所を意識した登校を指導していますか。



## 来年度の具体的な取り組みについて

- ・来年度の道徳でも家庭教育の日や通信などを利用して保護者に情報を発信し、保護者と協力しながら生徒の心をはぐんでいく。また、地域の行事などを通して地域の方と交流し、協力しながら地域とともに生徒を育てていく。
- ・来年度も引き続き、意欲的に授業に取り組むことができるような授業づくりを行っていききたい。そのために、各授業の目標（めあて）や単元を通した計画等を見通した授業づくりを行う。さらに継続して、わかる授業、楽しい授業づくりを目指して工夫改善していく。さらに、ICTを効果的に活用した授業づくりを見出していきたい。そのために、研修の機会を設けたり、教職員同士での情報交換を密にしてよりよい各教科・内容に合った活用方法を見出していく。
- ・来年度も引き続き、部活動の協力や保健体育科の授業改善を進めていく。そして、意識改善から行動変容につながるような取組を委員会を中心に行う。
- ・不登校対策については、幼少中連携は更なる強化が望まれる。また、関係機関との連携を深め生徒とその家庭を支援していきたい。いじめ防止については、道徳安武人権学習などを通し、生徒の人権意識を高め適切なコミュニケーション能力を身につけさせたい。
- ・来年度も引き続き新入生の連絡シートの活用や面談を行い、スムーズに移行支援ができるよう小学校や家庭と連携しながら教職員全体で共通理解・実践に努める。また、新入生保護者説明会や職員研修などで更に保護者や職員に特別支援教育についての啓発に努めていく。
- ・小中学校と地域の安全協会が連携しての取組は、来年度も引き続き行っていききたい。本校の課題である登下校中の事故防止については、各教科での学習を通し、交通安全や自然災害などによる障害の防止に対する知識を身につけ安全に対する意識を高めていきたい。
- ・教育方針・目標の理解については、各儀式的行事の際、および、学級・学校便り、PTA新聞、諸団体会合などあらゆる機会を通してわかりやすい形で情報発信を行いたい。
- ・来年度も引き続き行事や街頭指導などで、地域や小学校や家庭と連携に努める。また、地域における生徒のあいさつの向上にも努めていきたい。
- ・2年間続けたESDの研究で構築してきた、課題発見・課題解決力を身に付けるための授業・教育活動の実践を生かし、キャリア教育へとつなげていきたい。これからの社会を生き抜いていく生徒たちに、キャリアプランニングを含む「本校で身に付けたい7つの力」の育成を推進していきたい。
- ・一年生の自転車乗用中の事故防止に向け、新入生保護者会で学校、家庭、地域関係機関と連携して事故防止に努めるよう連絡を行っていききたい。また、委員会活動を通し、登下校中の事故防止及び交通ルールの順守など交通安全に対する意識を高めていきたい。

## 学校関係者評価

- ・ESD研究の集大成としてこれまで取り組んで来られた成果が、生徒の姿や学校環境の中にあらわれていると思います。
- ・生徒指導面で大変だった時代の事を思い出すと、今の落ち着いた北部中学校の姿にとっても嬉しく思います。
- ・不登校支援の為に先生方が生徒や家庭に寄り添いながら、取り組んでおられる様子、先生方の働き方改革に向けても地域として協力していきたいです。
- ・体育館に自動販売機が設置され、少しずつ学校が変化している様子が伺えます。これが生徒や保護者、地域に活かされていくことを望みます。
- ・次年度もキャリア教育や様々な研究指定に向けて、校長先生を中心に一丸となって取り組み、生徒が更に成長していくことを期待しています。